

そとうがく

7月号 (No. 30)
19.7.18 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



『対話』を意識して、真剣勝負を！

総合的な学習部長

小野 伸之

数年前、大豆栽培から豆腐作りの学習に、緑丘小学校の三年生の児童が取り組んだ。その道の達人から栽培方法などをつかっていたところ、その真剣さに打たれ、達人は山形県から岡崎市までわざわざ私費で指導に来てくださった。大雨河小学校では、サトウキビ栽培から砂糖を作る学習をしているとき、達人から情報を収集していた。これまたその真剣さに打たれ、達人は沖縄県から私費で指導に来てくださった。「総合」ではないが、葵中学校で、NHKの番組を活用した授業を展開していたところ、その番組の制作スタッフが興味を持ち、取材に来られた。そして、生徒の真剣さに打たれ、何度も足を運び、葵中の取り組みを紹介する作品の制作へと進んでいった。

私が知らないだけで、同じような取り組みは沢山あると思う。そのどれにも、指導者の単元構想の素晴らしさと、子どもたちを真剣にさせる熱意と子ども

たちに接する構えの素晴らしさがあつたと想像する。周りの人を動かす、周りの人が動きたくなるほどの子どもたちの真剣さを維持し続けた指導者の構えから、私たちは多くを学びたい。自分たちのために損得抜きで付き合ってくださいる大人との交流は、子どもたちの心の壁を振るわせ、大きく成長させる原動力となる。これは、総合的な学習が最も得意とする部分ではないか。

鳴門教育大学の西村公孝教授が、「言葉と体験の重視」という、これから総合的な学習が向かうべき方向を見据えて、『対話』の重要性について、『地域力リキュラムによる総合的な学習実践事例集』で指摘された。上に紹介した人との対話だけでなく、自然や物との対話、さらには自分自身との対話について、今年度は意識して取り組んでいきたい。

七月三日、愛知県小・中学校教育課程フォーラムに参加した。講師は、文部科学省の田村学教科調査官である。指導要領の改訂を目前に控え、総合的な学習の時間のあるべき姿をどう捉えるか、興味深くつかうことができた。以下、メモと資料を元に一部を紹介したい。

一 生きる力の明確化

『生きる力』を次の二点に絞られた。

キーコンピテンシー

(実社会・実生活で活用できる能力)

人間力

さらに、『生きる力』の育成という目標の具現化の手だてとして、以下の三点を挙げられた。

・ 実社会・実生活とのかかわり

・ 言葉と体験の重視

・ 習得・活用・探求の意識化

二 「読解のプロセス」を意識して

読解のプロセスの四段階を意識して単元構成をすることが大事である。しかし、さらに大切なことは、四段階の形より質である。質を高めるために、次の三点を意識して欲しい。

単元や授業のねらいに向かう形で学習活動が位置づけられていること。

それぞれの学習活動のつながりが適切になっているか。

個別の一つ一つの活動が、さらに質的に深まるような学習活動として行われているか。

指導要領の改訂に向けて、総合的な学習の時間も見直しが行われている。私たちは、目の前の子どもたちと真っ正面から向き合い、真剣勝負をしていく中で、総合的な学習の時間の質的向上を、これまで以上に意識していく必要がある。

研

を、総合的な学習

研

体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に展開する。

多様な学習集団や学習形態を工夫する。

地域との連携を図り、地域の学習素材や学習環境を積極的に活用する。

児童生徒に、自分のよさや成長を自覚させ、さらに伸ばしていけるような評価規準の設定や評価方法を工夫する。

総合的な学習部

部長

小野 伸之 (鳥川小)

岩月 慎自 (南中)

岩瀬 敏彦 (秦梨小)

桑木 富士子 (福岡小)

担当指導主事

金指 由香里 (岡崎市教育委員会)

指導員

中村 公治 (上地小学校)

山内 貴弘 (羽根小学校)

世話係

柴田 泰枝 (六名小) 清水 隆史 (竜美丘小)

尾崎 智佳 (城南小) 石黒 智康 (豊富小)

森田 淳一 (竜南中) 成田 隆行 (額田中)

情報コーナー

研修会

日時 八月三日(金)

十二時三十分～十六時三十分

場所 岡崎市民会館・甲山会館

内容 全体会・講演会・分科会

伸

研修会

基礎研修会を開催します。総合的な学習の時間の実践に役立つ具体的な実践例を使つての授業検討会や講話を予定しています。ぜひ、ご参加ください。

日時 八月一日(水) 午前九時～十二時

場所 南部市民センター分館

内容 開会行事

授業実践報告

助言者 愛知教育大学准教授 中野 真志先生

総合的な学習 研究会

矢作東小学校研究発表会 九月二十八日(金)

藤川小学校研究発表会 十月十七日(水)

六ツ美北部小学校研究発表会 十月二十四日(水)

形埜小学校研究発表会 十一月十四日(水)

竜海中学校研究発表会 十一月二十日(火)

第1回 学習会

総合的な学習

て

地域カリキュラム開発の視点
保護者や地域住民の思いや願いを受け、反映させる。
見通しを持ったためのカリキュラムの作成

段階を踏んだステップアップ
調査、計画、実践、評価、改善のプロセス
体験を軸にした問題解決学習

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点を基本とする。

学校として全体計画を作成する場合の留意点
学校としての考え方を示すようにすること。
身につけたい力を示すようになっていくこと。

「課題作り」「教材開発」「学習活動の構成」「評価」等の視点を設定し指導の重点を示すことよい。
各教科との関連を充実させるために教科ごとの指導のポイントが示されていることよい。

地域の人や保護者の参加を明確に示すことよい。 評価規準・評価計画の作成の際の観点

総合的な学習のねらいから「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方・ものの考え方」「学習への主体的・創造的な態度」「自己の生き方」「教科との関連から」「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「知識を応用し総合する力」

その他の観点 「コミュニケーション能力」「情報活用能力」